

なきごえ



1967



大阪市
天王寺動物園

あ

かけす

燕雀目
からす科

全国の山麓や、平野でも潤葉樹の多い林の中に群生して、年中すみついている留鳥です。鳴き声はからすの仲間のせいめい美声ではなく、ギャーギャーとしわがれ声をしています。全体の色はブドー色で、風切り羽と尾は黒色です。翼長は160mm 翼のもとの方に白と藍色の縞模様がとても鮮やかです。頭の両側、眼のふちは黒色で、頭頂部は白に黒斑のもようになっています。

4~5月頃、樹上に枯枝や木の根で盃形の巣を作り、細い褐色斑のある卵を5~6コ産卵します。

どんぐりを最も好みますので「カシどり」の別名があります。木の実はほか昆虫類もよく食べますので害虫駆除に役立つ益鳥です。

このかけすの雛が今年の5月に3羽寄贈されて入園しました。さっそくすり餌を作って与えたところせいて口を開けて餌を求めて

きましたので、ほとんど苦労することなくすくすく成長しました。飛びまわるようになり動作も一段と活発になって来ましたので、小さな小鳥籠では狭すぎるようになり、6月初めには広い禽舎に移しました。このとき、ちょっと放して見ましたが、全く逃げだす様子はなく、手乗り文鳥のようになれきって人のあとを追って来ました。からすの仲間は人によくなるものが多いようです。

7月初めから観覧用に園内の禽舎に移しました。こゝでは、ゆりかもめ、ばん、せいけいなどと同居なのですが、仲々元気にやっています。私達が禽舎の前を通ると金網のそばによって来てギャー



ギャーと餌をねだりますので、園内を巡察するときの楽しさが一つ増えました。パンなど大きな餌を与えますと、止り木の端や、禽舎内の目立たないところにかくして知らん顔をして又、餌をねだります。

どんぐりが好きだということで与えて観察してみました。どんぐりを見ると喜んで飛びつき両あしでしっかりと押え、嘴で根気よくつぶします。丸いどんぐりですからつかんだあしから何回もころげ落ちるのですが、そのたびにひらって来てはつぶみます。そのうちパッと口の中に入れました。

あんな大きな堅いものを飲み込むのかと見ていると、しばらくすると又、吐き出して嘴でつぶします。これは、どんぐりの堅い皮をしめして軟くするためでした。1羽のかけすはどんぐりを餌箱の下に穴を掘って埋め込みました。

このように自然の動物たちは餌を食べる方法についてもいろいろ工夫をこらしています。

大阪市内の緑化が進み、このようによく馴れるかけすが府下にもたくさん繁殖して私達の身近かにその姿をいつも見せてくれるようになる日を夢みてやみません。(松岡恵爾)

なきごえ 9月号もくじ

動物の紹介(かけす).....2
 飼方シリーズ(熱帯魚の飼方).....3
 動物園グラフ.....4.5
 ペットを訪ねて.....6
 動物園ニュース.....7

熱帯魚の飼方 (グッピーの飼方)

熱帯魚屋の前の、水漕の中で美しくきらびやかな魚鱗をくねらせて、スイスイ泳いでいる熱帯魚を見ると、一度飼って見ようと思われる方も多いと思います。

器具一式、魚等を買うとなると高く手が出ないのではないかと心配でなかなか決心がつかない人も多いでしょう。しかし、案外安くそろえるものです。次に必要な器具と値段をあげますと、

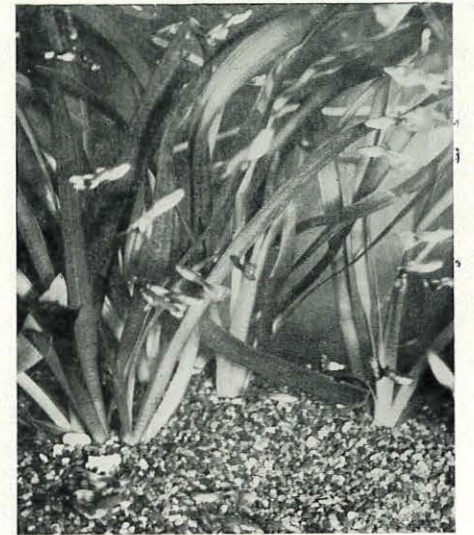
バット(水漕)	よこ45cmたて30cmたかさ30cm	1,200~1,800円
ヒーター	40W~100Wまで	300円
エアポンプ	100V 6W60サイクル	900円
フィルター	丸型	100円
蛍光灯	プラスチック10W	700円
砂	1袋	150円
水草	アマゾン 1本	100円
	ジャインアントサジタリア 1本	50円

と3,500~4,100円位でそろいます。

熱帯魚を飼うのにグッピーに始まり、グッピーに戻るといわれるぐらいですから、やはり初心者にはグッピーから飼うのがよいのではないのでしょうか。グッピーは南米ギアナ、ベネズエラに産し体長20~50mmくらいのめだかの仲間で、おすの方が美しい色彩をしています。グッピーの種類はいろいろありますが、普通小売店に売っている一番100円程度のはグッピーの雑種です。ベールテールファンテール、レッドレース、トップソードなどは一番400~500円です。魚を買うときは、なかまの中で最も元気よく発育のよいもの、ひれをたんでいたり、傷のあるもの、腹のへこんでいるものはさけて下さい。

さて、飼い方ですが、

1. 水 井戸水であれば温度だけ合せばすぐ使用できます。水道水は2~3日天日に晒しておくか、ハイポ(2~3粒)で中和させればすぐにでも魚を入れることができます。水温はグッピーで25~30°Cが適温です。
2. 砂はよく水洗いして、バットの底に3cmくらいしきつめます。



3. 水草は炭酸同化作用をし魚の住居ともなるものですからぜひ入れて下さい。
4. 餌は、生餌(ミジンコ、イトミミズ、赤ポーフラ)と人工餌(乾燥ミジンコ)があります。なるべく夏冬とも生餌の方が魚の成育によいのです。しかし、忙しいときなどはビン入りの乾燥ミジンコを常備しておくと便利です。餌はあまり多く与えないことで、朝夕5分位で食べ終る程度の量でよろしい。

その他、グッピーと他の熱帯魚を入れたいと思うときはソード、テトラ、エンゼル系統のもの及びドジョウ科のものがよろしい。

グッピーは繁殖力が強く、胎生で、短期日(約20日)で子供を産みます。めすの腹が目に見えて大きくなってきますので、その時には産卵箱を購入して、バットに入れ、雌のみをこの中にわけてやります。

グッピーは1度に20~80匹の子を産みます。産み終るとめすを出し、子だけにしておきます。2日目くらいから餌(クロレラミール)を少しずつ与えます。30~50日位すると親と一しょにできますが、もう一つ別のバットを用意してやるとなおよろしい。3~5カ月位で成魚となります。

(米田敏光)

動物園グラフ

“きりんの赤ちゃん誕生”

8月7日の朝、めすの赤ちゃんが生まれました。体高1.8メートル、体重約70キロとりっぱな体格です。両親はアフリカのケニアから来た11才の夫婦で、こんどで3度目のおめでたです。妊娠期間15カ月ここにその元気なきりん児ぶりを御紹介します。



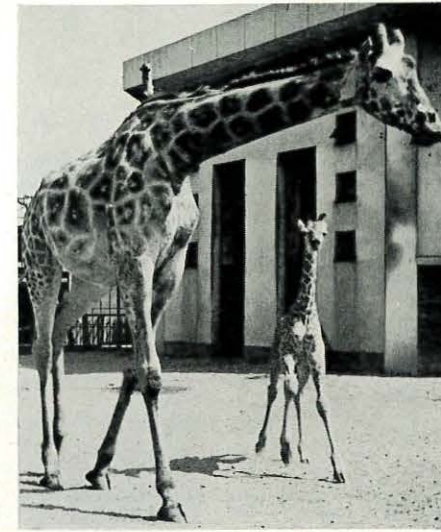
① “無事安産、分娩は約40分でおわりました。”



② しばらくするとフラフラくびをもたげてきました。



⑨ “きりん一家、左から姉のキリーちゃんそれにお母さんとお父さん”



⑧ 1週間後にはじめて母親と運動場に出してもらい元気に走り回りました。



⑦ かわいくてたまらないという表情のお母さんキリン

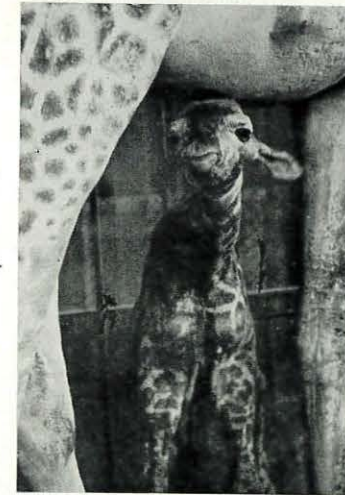


④ 生まれておよそ40分後に立ち上がろうとしていました。

③ 母親がさかんに体をなめまわしています。



⑤ ヨロヨロとやっと立ち上がりました。窓の外のお父さんも心配げ。



⑥ 生まれて2時間後には母親のお乳をまさぐり、乳首にすいついていました。

8月 動物園日記

- 8/1 おおづるが1日と5日にそれぞれ1コの卵をうみ おす、めす交替であためています。約33日間でひながかえります。
- 4 新居にうつったあかカンガルーに赤ちゃんが生まれお腹の袋がだんだんふくれてきました。秋になると袋の口からかわいい顔を出すことでしょう。
- 5 南アメリカ産のキンカジュウが病気で加療しています。
- 7 きりんの赤ちゃんが生まれました。めすの赤ちゃんです。予定日より約10日も遅れていました。

- ピニーマの赤ちゃんがうまれました。おすとめすの赤ちゃんです。これで3回目のおめでたです。
- 8 ライオンの仔2頭が動物交換のため出園しました。
- 9 連日の猛暑でプールの水温も急上昇。そのため暑さに弱いあしかは食欲もなくぐったりして、ついにめすの1頭が死んでしまいました。
- 11 今年人工ふ化されたインドくじゃく、ほろほろちょう約50羽を放飼するため、翼の切断手術を行いました。日本万国博を記念して、世界各国の主な動物園と動物の親善

- 交換を計ろうとこの日、18カ国、20園に対して交換の申し入れの手紙を出しました。
- さる島で日本ざる1頭が生まれました。
- 14 かっしょくペリカンが急死しました。調べてみると小腸糸虫がたくさんわいていたので他のペリカンに駆虫薬をのましてやりました。
- 15 昨年うまれたあしかの仔は母親に死なれたので、餌を食べなくなり弱っていましたので、別のプールに引きとって手当をしたり、餌を与えられています。
- 18 ぞうの家の鉄扉を強い鼻でねじ曲げたので補修工事をしまし

- た。
- 19 残暑が厳しく連日35°Cの暑さが続いています。あしかの仔はすっかり元気になり、えさを食べるようになりました。
- 20 かもしか園でくろかもしかがオリックスの長い角につかれて腹部など5~6カ所の実傷を受けましたが、早く手当をしたので、2~3日後にすっかり元気になりました。
- 22 18号台風接近で午後から大雨となりました。動物たちはあらかじめ寝室に収容されていたので、被害がありませんでした。
- 23 台風のもたらした雨ですっかり秋らしくなりました。

ペットを訪ねて

「犬を友として、」

浪速区恵美須町1-1

阪本義治さん

世の中には、数多く犬を飼われた方もありますが、阪本さんは珍しい犬を種類多く飼われた方で始めてからいろいろなもの十数種も手掛けられました。

精肉販売業を手広く営む阪本さんは、愛犬家であると共に大の動物好きで、巢立ちしたばかりの小雀を深い愛情で飼育して空に逃がしてやると云う心のやさしい方です。

小学生の頃から、雑種に始まって1頭60万円のシェパードまで、日本にきている種類の殆んどを手掛けられました。

「小さい時、叔父さんからもらった牛の子をおかゆを炊いて育てたのに売られてしまった苦い経験から、自分の力と責任で飼える動物をと雑種の犬を飼ったのがそもそもの始まりです。



阪本さんの愛犬シュナウツア種

しかし、段々、欲が出て2~3千円から60万円のシェパードまであらゆる手に入る犬を飼いました。ダックス、ヨークシャー、プードル、柴犬と巾広く手掛けましたが、私の性格に合う犬は少なく、例えばボストンテリアの時には2頭のイビキに悩まされたりした事もありました。」それでも最盛期には900㎡の犬舎には35頭の多種多様の犬が生活していたそうです。

「何んといっても、今いるシュナウツア種程、私にぴったりの犬はありません。体もスピッツ位で毛色が美しく外見はスコッチテリアに似ていますが、上品で落ち着きがあり座敷犬としては申し分ありません。賢くて人の云う事は全部理解するし番をするのも心得たものです。

飼っているクマの子や大きい犬が近よっても、静かに警戒するだけで体に似合わず肝っ魂の太い犬です。これらの性格も別に教えた訳でもなく天性として備っているのですから感心させられます。」

「この犬を最初に見たのはある家の応接間でしたが、その赤いジュータンと、この犬とがマッチしてなんともいぬ位気品に満ちたその姿に一目ぼれして無中で買ってしまいました。」

当時、一番で50万円もしたそうです。

「仕事が忙しく、つい犬の世話も充分出来ない時は泣く泣く手離したりする場合がありますが2~3日もすると又、犬が恋しくなり犬屋の前で立っています。」

話をしている最中でも行儀よく静かに坐ったまゝ聞いています。食事の時でも一つのお皿から仲良く分け合って食べるそうです。

「今、大阪にはこの2頭しかいないのでぜひ共、子供をとりたいたいのと、将来は競走犬を育ててレースに参加

させてみたい」と語る阪本さんは、まだまだ犬を人生の伴侶とした生活を続けられることでしよう。

シュナウツア種

ドイツで、牧羊、牧牛犬として作出された犬種で、大、中、小の三通りのタイプがあり、姿が美しく、非常に賢い犬で、日本では大変珍しい。(中川道朗)

表紙の写真説明

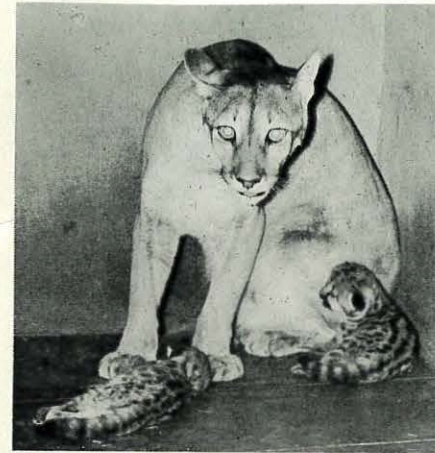
「ふたこぶらくだ」

新しいらくだ放飼場の完成と同時に、この2頭のふたこぶらくだがお目見得しました。左がおすですが人によくなれ、園内でよい子たちを乗せて歩くようになります。

動物園ニュース

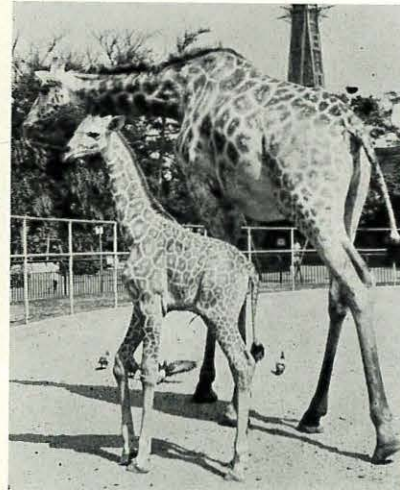
赤ちゃん誕生

★ピューマ



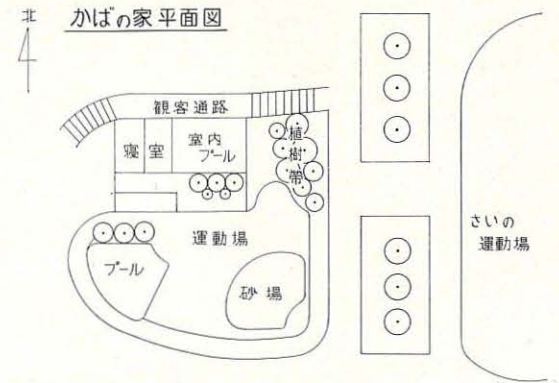
8月7日午後4時頃におすとめすの赤ちゃん2頭が生まれました。3年連続3回目のおめでたで、ずいぶん前から出産が予定されていたのに予定がかなりずれて係をヤキモキさせていました。赤ちゃんには、ごらんのように黒い斑点があつてひょうのようです。9月中頃にはお母さんと屋外運動場に出てよい子の皆さんにお目見得するでしょう。

★きりん



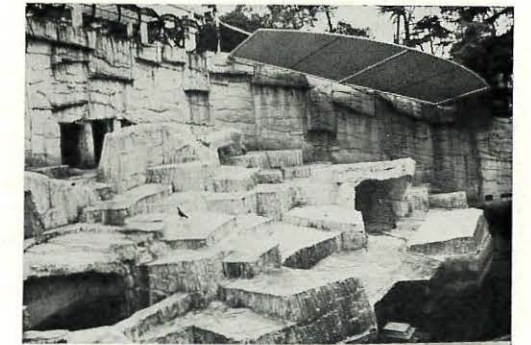
同じ日、きりんのめすの赤ちゃんが生まれました。今年が3度目のお目出です。2番目の子が去年3月に放線菌症と呼ぶ病気で死なせているだけに、大変神経を使つて育てています。赤ちゃんは生まれて約1時間もすると、立ちあがりました。せいの高さが約1.8mです。1週間後には、運動場に出してもらって一家4頭で愛きょうをふりまいています。4~5ヵ月もお母さんのお乳をのんで大きくなります。秋の動物園まつりには入園者のよい子たちからかわいい名前をつけていただくことにしています。

かばの家の新設工事がはじまりました。



ハイウェイが公園通りをつきることになり、従来のかば舎が撤去されることになりました。このため、北園さい運動場の西側に放飼場式の新しいかば舎が立つことになり、この8月から工事にかかりました。完成予定は10月末です。かばの家の平面略図は上図のようです。

しろくま舎にモダンな日覆い完成



しろくまの運動場には毎夏暑さに弱いしろくまのために日覆いのよしずを張っていましたが、今年もっと美しいものをとつて工事を始めました。このほど写真のようなモダンなテントが張られ、しろくまたちに喜ばれています。

秋の行事予定

- 9月24日 午後1時30分 動物総合感謝祭
- 10月8日~11月8日 秋の動物園まつり
 - 日曜祝日 小人入場者おみやげ進呈、文鳥プレゼント(抽せん)、動物相談所開設、動物ショー、豪華アトラクション
 - 10月中 キリンの赤ちゃんペットネーム募集
 - 10月15日 子供まつり一人形劇・子供のど自慢大会
 - 11月5日 キリンの赤ちゃんの命名式
ゴリラ命名式

なきごえ 昭和42年9月15日発行（毎月1回15日発行）第3巻第8号（通巻28号）

編集人／和田辰巳 発行所／社団法人大阪市天王寺動物園協会

大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 771-8401

定価 40円

